

石川県

定 数： 3 名

立候補者数： 4 名



氏名 野口 雅弘

都道府県士会 石川県

年齢 46

勤務先名称 金城大学



氏名 丸居 夕利佳

都道府県士会 石川県

年齢 38

勤務先名称 金沢西病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成21年～令和5年 石川県理学療法士会事務局ニュース編集部部長
 平成23年～平成29年 石川県理学療法士会事務局ニュース編集部部長
 平成29年～令和5年 石川県理学療法士会理事(事務局担当)
 令和元年 石川県理学療法士会創立五十周年記念誌編集委員長兼
 記念式典準備委員
 令和元年～令和5年 石川県理学療法士会臨床実習指導者養成特別委員会学校委員
 令和3年8月～ 日本地域理学療法学会 評議員
 令和5年9月 第39回東海北陸理学療法学会学術大会兼第32回石川県理学療法
 学術大会 大会長

平成21年から事務局のニュース編集担当として県士会ニュースの年4回の編集と発行に
 尽力し、平成23年から部長、平成29年から理事として携わってきました。
 また、令和元年には、石川県理学療法士会五十周年記念式典準備委員および記念誌編集
 委員長として、これまでの県士会活動の総括となる仕事を行いました。近年は学会連合
 での専門会員や評議員として、主に学術活動に力を入れています。令和5年には約3年の
 準備期間を経て、第39回東海北陸理学療法学会学術大会および第32回石川県理学療法
 学術大会を大会長として開催することができました。
 東海北陸理学療法学会学術大会では、理学療法士の公衆衛生活動による職域の拡大とそれ
 に伴うジェネラリスト育成のための卒後教育の重要性について訴えました。現在の日本
 の少子化と社会保障費削減という社会情勢の中、職域の拡大と理学療法士の質の担保は
 重要な課題です。さらに石川県では、震災により理学療法士の地域活動の重要性は益々
 増しております。私は代議員となって協会に意見を伝え、よりよい協会活動になるよう
 に支援していきたいと思っております。よろしく願いたします。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成25年～平成28年 公社) 石川県理学療法士会 業務推進部部長
 平成29年～平成31年 公社) 石川県理学療法士会 業務推進部部長
 令和元年～令和2年 公社) 石川県理学療法士会 職能局 理事
 令和3年～令和4年 公社) 石川県理学療法士会 副会長
 令和5年～ 公社) 石川県理学療法士会 事務局 理事

理学療法士が社会の役割を果たすためには、地域包括ケアシステムの構築が推進される
 なかで、時代の変化や各地域の実情に応じた組織づくりが必要と考えています。
 私は、地域包括ケアシステム構築に向けて、行政への渉外活動や事業対応を中心に活動
 してまいりました。事業を通じて、地域の住民の大きな力や行政担当者の苦悩を知ること
 ができ、より地域活動の魅力や理学療法士の職業使命を再確認しております。
 地域での活動は多種多様であり、組織づくりには苦悩が絶えない中で、協会では組織運
 営強化に向けた合同情報交換会なども近年開催されており、士会運営の先行事例や各市町
 村への働きかけなどを共有・情報交換できる非常に参考になる機会も設けられています。
 今後も協会と各都道府県士会が協働して事業構築をしていくことが、さらなる発展につな
 がると思います。
 会員へ貢献できるように微力ではありますが、精一杯頑張ります。皆様方のご支援を賜
 りますよう何卒よろしく願いたします。



氏名 小堺 武士

都道府県士会 石川県

年齢 44

勤務先名称 北陸病院



氏名 諏訪 勝志

都道府県士会 石川県

年齢 57

勤務先名称 恵寿金沢病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

令和6年能登半島地震にて被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。また、ご職場での避難者受け入れや被災地等での災害支援にかかわり日々奮闘されている会員の皆様には心より敬意を表します。今しばらく、皆でふんばっていきましょう。

さて、私は会員の皆様のご支援をいただき2期4年間代議員を務めて参りました。その間、コロナ禍が訪れ、ようやく出口が見えてきたと思ったら今回の震災です。一方、社会では賃上げや働き方改革も着々と進められてきております。医療や介護の分野も他人事ではなく、理学療法士を取り巻く環境は刻々と変化してきています。理学療法士の業務には様々な課題があるかと思いますが、日本理学療法士協会ならびに石川県理学療法士会は、理学療法士がベターな選択ができるように様々な議論をし、行動していることが代議員や士会役員をしていると見えてきます。今回の災害支援に関しても、日本理学療法士協会からの情報提供や支援には非常に助けていただけており、中央の協会と都道府県士会の関係は重要だとあらためて感じています。しかし、それらがおそらく一般の会員には見えにくく、十分には伝わっていないのだと感じています。ホームページやメールマガジン等での情報発信はありますが、重要なのは人から人への口伝なのではないかと思っています。いつの間にかオンラインミーティングがあたり前になり、クラウドを使った情報共有も進み、社会は確実に前進しています。しかし膨大な情報の中から大事なコアメッセージを見つけ、広げていくのはやはり人と人との直接的な関わりを介してなのだろうと思います。もし私を再任いただけるようであれば、今一度、日本理学療法士協会と石川県理学療法士会のハブとして活動させていただきたい所存です。よろしくお願いたします。

【役員歴】

平成29～30年度 (公社) 石川県理学療法士会 理事(職能局担当)
 令和元年度～現在 (公社) 石川県理学療法士会 事務局長
 令和3年度～ (公社) 日本理学療法士協会 理学療法標準評価推進運営部会
 令和4年度～ (公社) 日本理学療法士協会 士会協会情報共有ツール検討部会

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

士会役員歴

2013～2016年 職能局理事
 2017～2020年 職能局局长
 2019～2020年 訪問リハビリテーション研修委員会委員長
 2019年～ 副会長

2001年から研修部、生活習慣予防部、業務推進部、生涯学習推進部などの部員で活動後、理事となりました。主に職能関係を担当していましたが、協会の方針などを確認しながら士会活動を行い、士会員の活動の場を広げられるように取り組んできました。副会長となっても地域貢献、士会活性化のため協会とのつながりを持ってきました。今後もこれまでの経験を活かし、より一層、士会の意見を協会へ反映できるように代議員へ立候補しました。